

国際空港都市へと発展



張市長(左)と固い握手を交わす長谷川市長



太平洋を越えた交流の始まり

市では国際空港都市にふさわしいまちづくりを目指し、昭和63年に中国・咸陽市、平成2年にアメリカ・サンブルノ市と友好・姉妹都市を締結、交流を深めました。また、街並みも目覚ましい変貌を遂げていきました。

咸陽・サンブルノと友好・姉妹都市に

成田空港の開港を機に、国際交流活動を積極的に推し進めてきた本市では、昭和60年から中国・咸陽市と互いに訪問団を派遣し合ったり、市内の小中学生で構成された「日中友好・成田市少年の翼」の一行が咸陽市を訪問したりして、交流を重ねてきました。

市では、咸陽市との友好関係をさらに深め、より充実した交流活動を行うために同市との友好都市の締結を申し入れました。昭和63年9月14日に国際文化会館で行われた調印式では、当時の市長・長谷川録太郎氏と咸陽市長・張宏勳氏が協定書に調印し、固い握手を交わしました。

2年後の平成2年10月6日には、昭和60年から交流が続くアメリカのサンブルノ市と姉妹都市を締結。サンブルノ市は、サンフランシスコ国際空港に隣接し、サンフランシスコ市のベッドタウンとして発展した都市です。

毎年サンブルノ市の中学生の使節団が本市を訪問し、市内の家庭にホームステイをして、成田祇園祭に参加するなど、日本の生活を体験します。反対に市内の中学生もサンブルノ市を訪問するなど、中学生訪問団の交流は続いています。

発展する街並み

国際空港都市にふさわしいまちづくりを目指して、昭和60年〜平成6年の10年間に成田駅西口、京成成田駅東口、成田第一、公津東土屋、久住駅前、東和田・寺台などの土地区画整理事業が順次進められていきました。

その結果、昭和61年4月1日に旧国鉄(現JR)成田駅と成田ニュータウンとを結ぶ西口広場などの諸施設がオープン。西口広場には、バスターミナルやタクシー乗降場のほか、大規模な駐輪場が設置されました。歩行者の安全を配慮して作られた歩行者専用デッキには駅の自由通路につながるエスカレーターも設置されました。

Narita Chronicle

「昭和60～平成6年の出来事」

昭和61年 4月	成田駅西口広場などの諸施設がオープン
昭和63年 9月	中国・咸陽市と友好都市を締結
平成元年11月	新庁舎竣工記念式典が開催
平成 2年 8月	成田高校野球部甲子園出場
10月	アメリカ・サンブルーノ市と姉妹都市を締結
平成 4年 7月	京成成田駅東口地下自由通路がオープン
平成 6年 4月	京成公津の杜駅がオープン
11月	市制施行40周年記念式典を開催



整備が進む国鉄(現JR)成田駅西口周辺



成高ナインが甲子園に出場



市内の中学生がサンブルーノ市を訪問



姿を現した市役所新庁舎と奥に見える旧庁舎。手前は工事中の京成成田駅東口

市の花がアジサイに

平成6年、市制施行40周年を記念して「市の花」が、市民からの郵便投票の結果、アジサイに決まりました。選定理由には「花の姿が門前町成田にふさわしい」「印旛沼周辺などを中心に、市内のあちこちで植栽されている」などが挙げられました。



甚兵衛公園のアジサイ

現在の庁舎が完成

昭和33年に竣工した市役所庁舎

この後も土地区画整理事業は進められ、平成2年3月に完了、JR成田駅西口に新たな市街地が誕生したのです。
京成成田駅においても、平成4年に駅中央口広場と東口広場を結ぶ延長61メートルの地下自由通路が完成。同年7月23日から通行できるようになりました。
平成6年4月1日には京成公津の杜駅がオープン。飯田町・飯仲・大袋・江弁須・下方の一部において進められていた公津東土地区画整理事業のランドマークとなりました。

は、空港建設が決定した昭和41年以来、人口増加と行政需要の拡大により、手狭になっていました。そこで昭和62年、市役所の敷地内の高台を造成し、新庁舎(現庁舎)の建設を開始。
外観は歴史のある門前町のイメージを大切に、国際空港都市にふさわしいデザインが採用されました。緑色の大きな三角屋根が特徴の行政棟と議会棟などで構成される新庁舎の竣工を記念して、平成元年11月9日に6階大会議室で式典が挙行されました。当時の広報紙は「人口15万人の未来都市に対応」と報じています(「広報」なりた平成元年11月1日号)から)。